

郵政資料館

研究紀要



ISSN 1884-9199

郵政歴史文化研究会編

# 郵政資料館 研究紀要

平成23年度 第3号

平成23年度 第3号



ISSN 1884-9199

郵政資料館 研究紀要 第3号

日本郵政株式会社郵政資料館



## 〈表紙解説〉

『郵便取扱の図』（郵政資料館所蔵）柴田真哉<sup>(1)</sup>筆

### 第五図 郵便支局、自局配達区分作業

区分口に表示された東京の地名ごとに郵便物の配達区分作業を行っている。中央に描かれている区分口のうち、中渋谷、中野などは郵便支局<sup>(2)</sup>配達分、右端に少し見える麴町、飯田、本郷の区分口も支局分である。富澤、住吉、櫻田などそれ以外の区分口は本局<sup>(3)</sup>配達分と思われる。

区分台の上には2台も西洋式の書状秤が置いてあるが、これは書状の重量で郵便料金が変わるため、重そうな書状を計量したのであろう。

区分された郵便物のうち本局で配達する郵便物は道順組立<sup>(4)</sup>作業に回され、支局分は人車による伝送便で通送された。

### 第六図 差立区分、把捉、郵袋納入作業

郵便ポストなどから取り集められた全国宛での郵便物の区分作業を行っている。

区分口の表示から神奈川、藤沢、沼津、興津、静岡、浜松、桑名、四日市、草津、京都、大阪、神戸、明石、姫路の文字が読み取れるので、東海道から中国方面への差立区分であることがわかる。左端の局員は区分した郵便物を把捉している。床にある大きな塊は把捉紐である。

区分棚の隣では差立てに関連する帳簿に記帳を行っている。その手前では方面別に把捉した郵便物を郵便行囊<sup>(5)</sup>に納入する作業をしている。赤い小行囊は書留などが入っているのだらう。

---

1 『郵便取扱の図』については『郵政資料館研究紀要』（創刊号、2010年）表紙裏解説を参照。

2 同一郵便区内で本局業務を分掌した郵便局。

3 ここでの本局は駅通局（東京郵便局として独立するのは明治19年6月1日）

4 配達する順番に郵便物を並べ替える作業のこと。

5 郵袋。郵便物を入れる袋。